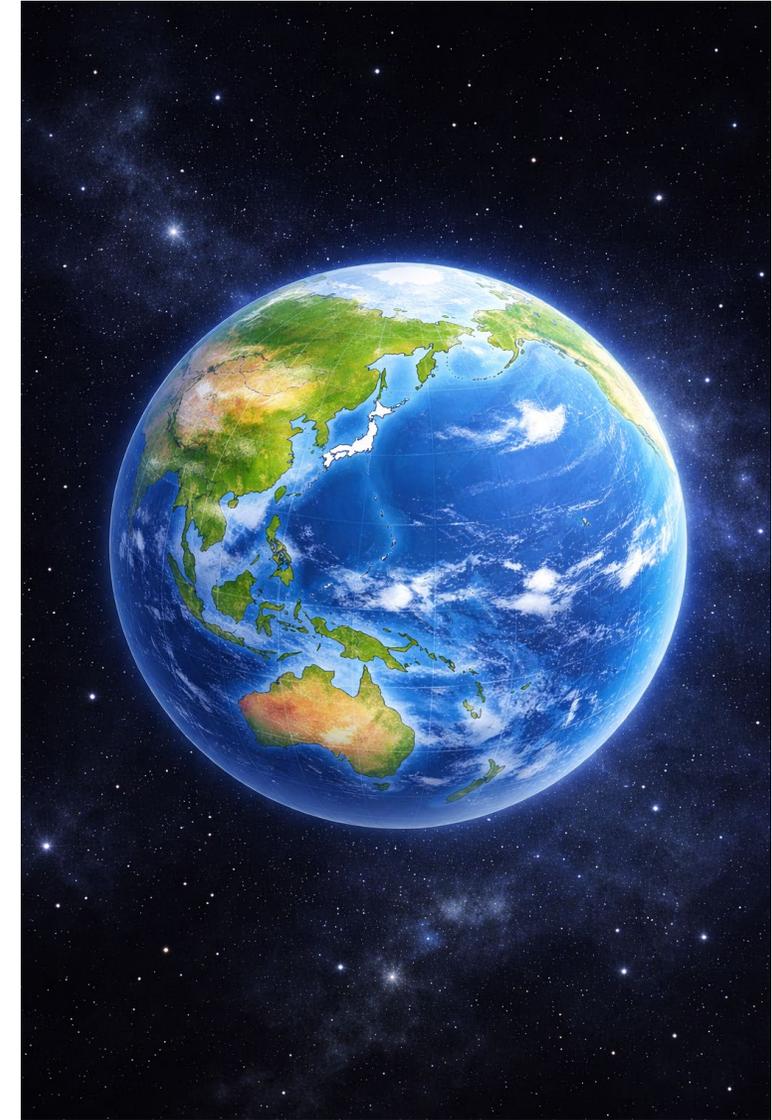
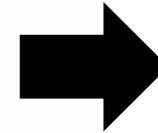
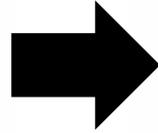


国際的な観点から見た際の社会科に必要な視点等 (北川)



国際的な観点から見た際の社会科に必要な視点等 (北川)



国際的な観点からみた際の社会科に必要な視点等 (北川)



国際的な観点から見た際の社会科に必要な視点等 (北川)

【国際的な観点から見えるポイント】

- 時間軸、空間軸の考え方。
- ダイバーシティ。現代のクラスルームの構成に対応しているか。「何を教えた？」から「何を（一緒に）考えさせた？」まで。「我が国の公民」から「現代のWe」への転換。

【今後見直す際の視点の提案】

- 「教える」要領は、同様の資質をアイテムのように与えるようパッシブに書くべきなのか。自由な余白（余裕）を持たせたり、授業がアクティブなものになるよう助長してはどうか。
- テスト対応型（知識の単一的な扱い方）から、個人の持ち味を伸ばすことに対応できる形にしてはどうか。（その方がより普遍的。）特に、社会科教育にはアイデンティティの形成に貢献する側面があるため、他の教科よりも人間らしくなるのでは。

【今後、数年を見据えて】

- デジタル化が進み、学び方のみならず、先生と児童生徒の関係の在り方も変化している。加えて、さらなるAIの発展による学習方法の急速な変化が、今後数年のうちに見込まれる。国内外の政治情勢の動向は常に未知で予測は不可能ではあるが、現在の産業の発展（特に宇宙関連）は加味する必要があるのではないか。